



平成28年度 HATOプロジェクト研究会等予定一覧

本HATOプロジェクトは4大学の連携により各大学の強みを生かしつつ教員養成の機能の強化・充実を図ることを目的とし、更には、全国の教員養成系大学・大学との連携・協力を促進し、日本の教員養成の諸課題に積極的に対応するため取り組みを進めております。本年度の研究会等予定を下記に示しました。開催案内等決定となりましたらHATOプロジェクトWebページ (<http://hato-project.jp/>) でお知らせいたしますので、詳細はWebページでご確認ください。また、併せて本プロジェクト成果が「養成・採用・研修」のどの段階で活用可能なかも示しております。成果物（下線該当部分）については、現在、教員養成系大学・学部や学校現場への提供可能ですので、ご利用希望もしくは内容についてご質問等ございましたら、該当部門・プロジェクト問い合わせ先までご連絡ください。

部門・プロジェクト名	月日 (予定)	研究会(仮題)	会場等	平成27年度までの研究概要	成果活用			最終年度(H29)成果物 ※下線についてはすでに完成している成果物です。	
					養成	採用	研修		
IR部門	2月4日	教学IRシンポジウム	東京学芸大学 (東京都小金井市) C201教室	IR (Institutional Research) 部門においては、4大学で協働して、IR的手法を用いた教員養成系大学の機能強化(教学改善)に向けての取り組みを行っている。平成27年度までの具体的な活動としては、①新入生学習調査(平成26、27年度実施)と2年生を対象とした大学生学習調査(平成27年度実施)の共同実施、およびそのデータの集計・分析、②各大学における教学関係のデータの洗い出し(データマップの作成)およびその活用についての検討、③これらのデータを踏まえて各大学の教学改善を行っていく方策の検討、等を行ってきた。また、次年度以降の実施に向けて、④大学生学習調査以後の動向のフォロー(卒業時および卒業生を対象とした調査等)のプランづくり、および⑤教育実習前の学生を対象に、学生の主観的・客観的レディネスを把握し向上させるための「教育実習前支援アンケート」及び「教育実習前検定」の共同開発等にも取り組みつつある。	○	○	○	教学改善や経営戦略の策定等、各種目的に応じたデータ分析・提供が可能 ・平成27年度HATOプロジェクト「 <u>教学IRシンポジウム</u> 」冊子	
研修・交流支援部門	2月	研修・交流支援部門 フォーラム 教員養成ならではの教職員PD(プロフェッショナル・ディベロップメント)の開発(仮)	大阪教育大学 天王寺キャンパス	本部門は大規模教員養成系単科大学を中心に、教員養成教育が共通して抱える諸課題を協働で解決できる体制を整備するとともに、全国の教員養成系大学・学部とのネットワーク化を図り、日本における教員養成の高度化支援システムを構築する。本部門は前年度より、教員養成系大学・学部及び教職課程における教育並びに業務にあたる大学の教職員が、教員養成系のミッションである教員養成教育、教育支援人材育成、教育を軸とした多様な職業人の育成という方面において、自身の専門性(専門職性)をどのように伸ばしていくか、その一助となる「教員養成ならではの教職員PD講座」の開発・試行を続けている。本部門では平成25・26年度実施の全国の国公立大学へのFD・SD調査の結果をふまえた教員養成に携わる大学の教職員に固有の力量モデルの提示があり、その力量(知識・技能)を開発する研修として8つのPD講座を開発・試行中である。関連して、本部門は教員養成のグローバル化対応や受講者中心の研修の効果測定、評価方法の開発にも力を入れている。	○		○	研修テキスト、研修仕様書(マニュアル)、研修カリキュラム、DVDの提供	
多様な学習環境への取り組み 先導的実践プログラム部門等	へき地・小規模校教育に関するPJ	3月	「へき地・小規模校教育」フォーラム	北海道教育大学 札幌駅前サテライト (北海道札幌市)	本プロジェクトは、全国各地で小・中学校の小規模校化や統廃合が進んでいる現状を鑑み、少人数の特性を生かした個に応じた指導方法とへき地・小規模校での実習を通じた教員養成モデルを構築することを目的としている。研究期間は平成25年度から27年度までの3年間にわたる研究プロジェクトである。具体的には、平成25年度はへき地・小規模校の学習指導の教材開発として、北海道の公立小学校の複式学級における算数科の異学年指導の授業を収録し映像資料を制作した。また、複式学級における学習指導の手引書を刊行した。平成26年度はこれらの教材を活用し、北海道教育大学ではへき地・小規模校での実習の際の学生指導において具体的な指導を行ない、さらに、平成27年度には、複式学級における社会科の異学年指導の授業を収録し映像資料を制作した。4大学連携としては、これらの教材を活用した出前授業を実施し、実際に学生指導の際に活用した教育効果の検証を進めている。さらに、本プロジェクトでは、実習に関わる教育の成果やへき地・小規模校教育に関わる研究の成果を生かし、へき地・小規模校教育に携わる現職教員への支援につながる取り組みを試行的に進めている。	○		○	・「複式学級における学習指導の在り方」に関する手引書 ・複式学級授業映像資料【算数科：中学年】 ・3年間の成果と展望 ・複式学級授業映像資料【社会科：高学年】 ・「複式学級における学習指導の在り方」に関する手引書【改訂版】
	教育支援人材養成PJ	3月	「チーム学校」「地域学校協働」時代の学校と教員・教育支援職養成	東京学芸大学附属竹早中学校(予定) (東京都文京区)	本プロジェクトは、「チーム学校」「地域学校協働」時代の学校と教員・教育支援職養成のあり方を検討するとともに、教職・教育支援職に就こうとする学生や現職教員のチームアプローチ力を育むためのカリキュラムのプロトタイプの開発と検証評価を行ってきた。この結果をとりまとめて、学生、教員向けのテキストの編纂(「教育支援とチームアプローチ-社会と協働する学校と子ども支援-」、書肆クラルテ、2016、として発行)や映像教材の作成、単位互換制度の整備を通じた4大学共通のカリキュラムの整備をこれまでに行った。具体的には、東京区内、市部、尼崎市で行っている現場をフィールドとしたチームアプローチ力を高めるための人材養成と教員・教育支援員研修の両面の役割を担う取り組みを継続して進め、各大学のカリキュラム改善にその成果を具体的に埋め込むとともに、各種の教材開発を行い、講義支援のツールを整えてきた。	○		○	・テキスト(「教育支援とチームアプローチ-社会と協働する学校と子ども支援-」、書肆クラルテ、2016) ・「チーム学校」「地域学校協働」「教育支援」「子ども支援」等14本の映像教材 ・「教育支援人材論」等のカリキュラム・プロトタイプと手引書 ・先進諸国の事例調査報告書と日本の現状に関する各種の社会調査報告書
	教育環境支援PJ	7月6日 1月18日	サマーフォーラム (仮称) 学生活動研究報告会	東京学芸大学 ラーニングcommons (東京都小金井市) 東京学芸大学 ラーニングcommons (東京都小金井市)	H24年度3月末より27年度末までは、実践フィールドの中学校に学校支援室を設置し、教育環境サポートを推進した。27年度までに①実態把握調査、②授業進行支援、③学習支援、④幼少・小中連携基盤形成支援、⑤オフスクール(放課後活動)⑥オフスクールパーク(隣接公園での活動)⑦4大学学生生活動情報の交流、⑧特徴ある教育環境の視察、⑨地域連携イベントなどを行う。H28年度からは、イ)当該中学校が、最も至近距離にある大学:東京未来大学との連携をスタートした。/27年度内より、ロ)産学連携の共同研究「中学生における、小学校学習内容の積み残しからくる学力停滞の克服方法に関する基礎研究」が始まった。ハ) オフスクールパークは、足立区にある都立公園内で指定管理者と再び連携しながら活動。ニ) 大阪、愛知、東京、北海道それぞれの特徴ある教育環境を視察は、4大学の参加学生、教員の活発な意見交換と教員養成の振り返りにつながった。学習支援等に関わってきた学生たちがH27年度末から「学生たちが大学を使い切る」という活動を始めている。	○		○	・学校「相談室」活用の実践ミニハンドブック ・特別支援教育と専門相談における『行動支援』の簡易逆引きマニュアル&事例による効果的なアドバイス集 ・動画を使った授業支援メソッドと動画教材
新たな教科指導の充実	小学校英語教育の指導力向上PJ	12月	「小学校英語教育の指導力向上プロジェクト」フォーラム	北海道札幌市	本プロジェクトは、大学院生の小学校英語専門家養成のために、多様な質の授業を録画撮りし、研究用教材として収集し教材バンクとすること、小学英語及びその関連学問分野における講義・講座の映像資料を大学間で提供し合い授業資料とすること、そして、これらを遠隔において大学間で共有し、連携するためのオンライン協働研究・学修用プラットフォームを構築することを目的としている。既に北海道教育大学では、小中連携プロジェクトに取り組んできており、その基礎的成果の上に小学校英語指導者資格認定制度が平成25年度から始まっているなど、小学校英語の授業やカリキュラムの改善、教員の資質向上に取り組んできている歴史がある。さらに平成25年度から北海道教育大学の附属学校が英語教育の研究開発学校となったことから、小中連携やそのための附属学校教員の指導方法の研究や教育内容の検討が本格的に始まっている。本プロジェクトではこのようなこれまでの研究の成果をHATOの4大学において発展的に継承するものである。	○		○	教材バンク・授業映像資料等協働学修プラットフォーム
	理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進PJ	3月初旬	「理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト」シンポジウム	愛知教育大学 (愛知県刈谷市)	理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクトは愛知教育大学科学・ものづくり教育推進センターが中心となり、連携する北海道教育大学、東京学芸大学、大阪教育大学とともに、これまで各大学で個別に行ってきた諸活動のノウハウ等を提供し合い、理科実験・ものづくりのできる教員の養成と育成、現職教員の支援を目的とするものである。さらには、各地域の拠点大学として、周辺の国立大学のみならず、私立大学も含め、地域において理科・ものづくりのできる教員(理科・ものづくりを苦手としない教員)を養成すること、地域の子どもたちに科学に一層興味を持ってもらうことを目的とした活動も組織的・継続的に実施していくことも目的としている。	○		○	理科ミニマムの知識・実験方法のテキスト化(eラーニング化)

部門・プロジェクト名		月 (予定)	研究会（仮題）	会場等	平成27年度までの研究概要	成果活用			最終年度（H29）成果物 ※下線についてはすでに完成している成果物です。
						養成	採用	研修	
先導的教員養成への取り組み	特別支援教育の多面的・総合的支援PJ	2月	「特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト」シンポジウム	愛知教育大学（愛知県刈谷市）	本プロジェクトでは、教員養成大学における特別支援教育の取り組みについて現状と課題を整理し、推進させていくための在り方を検討する。内容としては、教員養成大学における教職科目としての特別支援教育の講義の実施、特別支援教育の専門課程のカリキュラムと実践演習、特別支援教育に係わる法律の理解、障害学生支援等の実態把握と課題解決に向けた取り組みを進める。プロジェクトの前半では現状の課題を整理することを中心に進め、後半では各大学の課題解決のための実践的な取り組みを行い、その成果を検証していき、HATOの4大学の連携を強化する他、国内の教員養成大学に「大学における特別支援教育のモデル」を発信していく。	○			教員養成系大学における障害学生支援方法のブックレット・教員養成プログラムの資料
	外国人児童生徒支援PJ	12月	「外国人児童生徒教育支援プロジェクト」講演会	愛知教育大学（愛知県刈谷市）	地域社会に定住外国人の方が確実に増えつつある今日、地域差はあれど、その子供たちの教育は避けることのできない課題となっている。しかしながら、これまで、教員養成の中では特にこの問題が取り上げられることは限られており、問題が顕在化している地域にある大学で学んでいない場合、実際の現場に立った時に戸惑うことが多かったと考えられる。HATOプロジェクトで連携する4大学は、それぞれの異なった背景を持ち、それぞれの知見を共有することによって、広く日本全国の教員養成に役立てられる知識と技能とを分かち合うことが可能であると考えた。現在、4大学の知見をもとに多文化共生・外国人児童生徒支援に関わる内容の教材作成に取り組んでいるところである。	○			・学生向け啓発冊子（Vol.0～2，継続発刊準備中） ・幼稚園・保育園ガイドブック ・小学校ガイドブック ・ことばとおぼえるひらがなワーク ・ことばをふやす漢字ワーク
	IB教育PJ	2月	ネイティブ教諭によるJALTO及びIBワークショップ報告会	東京学芸大学 国際中等教育学校（東京都練馬区）	現在文部科学省は「2018年には国際バカロレアDP認定校を200校まで認定する」という閣議決定から、IB校200校構想を軸として、全国の高等学校にSSHやSGH、IBに関する研究などIB教育の普及が進んでいる。しかし、まだ解決しなければならない課題も多く、その一つに教員養成があげられている。そこでIB教育プロジェクトは、IB授業実践のできる「グローバル人材育成を目指す教員養成プログラムの開発」を目標としている。本プロジェクトは、具体的なテーマを3つ掲げ、それぞれ同時に実施継続することで目標を達成する計画である。同時に、IB教育（PYP MYP DP）の理念や概念を、日本国内の学校教育に反映させるよう、各地域において普及活動を行っていく。平成27、28年度は、外国人講師が指導要領に以下に理解し、イメージ授業を行うための支援についても研究を進めてきた。	○		○	カリキュラム ALTによる指導要領に即した授業実践 地方に設立するIB校への支援 外国人講師のための指導要領理解と授業実践支援
	安全・防災教育のプログラム開発PJ	3月	学校危機メンタルサポートセンターフォーラム	大阪教育大学 学校危機メンタルサポートセンター（大阪府池田市）	大阪教育大学において運用・展開してきた「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステム」（犯罪からの安全領域）の教材を基盤とし、「災害からの安全領域」と「外傷からの安全領域」、将来的には「交通事故からの安全領域」を加え、包括かつ体系的な安全教育教材を開発し、HATO4大学の連携のもと、作成した安全教育教材の活用と実効性の検証を進める。作成した安全教育教材は現在準備中の「学校安全情報プラットフォーム」に搭載するとともに、研修会の開催等による教員養成機関や教育現場への発信を通じて、わが国の子どもたちが、安全推進における「自助」・「共助」・「公助」の理念を理解するとともに、将来的に自ら進んで安全で安心なまちづくりの担い手となるべく、安全教育の一層の普及と充実を支援していく。	○		○	学校安全情報プラットフォームを通じて全国にe安全学習教材を発信
先導的実践プログラム等	演劇的手法による教員養成課程の学生並びに現職教員のコミュニケーション能力育成PJ	3月	「教師教育と演劇的手法」研究会 「演劇的手法によるコミュニケーション能力育成PJ」フォーラム	大阪教育大学 天王寺キャンパス（大阪府大阪市）	北海道教育大学は、平成23年度から平成25年度まで、富良野GROUP（代表：倉本 聡氏）と連携し、富良野塾26年間の実績と本学の人的・学問的資源を活用して、教員養成課程の学生並びに現職教員のコミュニケーション能力を育成するプログラムを開発してきました。子ども・若者たちの人間関係はより複雑化し、教師自身の「コミュニケーション能力」についても、その育成の必要性に関する語りや悲観的なまなざしが増している中で、子どもたちのコミュニケーション活動の媒介者として、多様な他者との創造的で豊かな関わりを育むことができる教員を養成するため、これまでの成果をもとに、4大学が連携し、「コミュニケーション実践」の授業科目を教員養成大学に提供し、さらに教師教育プログラムを発展させます。	○		○	書籍「教師」になる劇場（仮） カリキュラム
	教員の魅力PJ	未定	未定	未定	教員の魅力の今日のイメージを子ども調査と教師調査を基本に解明し、魅力ある教師の養成に資する教員養成カリキュラムの改革のための基礎データを収集することを目的としたプロジェクトである。	○		○	調査資料
	放射線PJ	11月	シンポジウム「理科教員に求められる放射線教育」	学術総合センター 2F 一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区）	中学校などで科学的な視点に立った放射線教育をきちんと指導できる中等教員の養成が急務になった現状を踏まえ、本プロジェクトでは、これに対応できる中等教育の養成を目指している。この目的のため、教員養成課程に所属する学生を対象に、放射線についての講義・実験及び実習からなる放射線教育プログラム（「放射線教育Ⅰ」「放射線教育Ⅱ」）を開発した。「放射線教育Ⅰ」で行われた授業のうち、実験実習部分について「ビデオコンテンツ」の作成を行い、HATO Webページにて公開した。また、教員養成向け放射線教育の授業資料という視点で「授業パッケージ」の作成を行い、Web掲載のための準備を行った。これらの資料は、全国の教員養成だけでなく、教員研修への活用も視野に入れている。これらの資料を活用し、他大学の教員養成系学部・学科の学生向けに、放射線教育の「出前授業」を行った。	○		○	・「放射線教育Ⅰ、Ⅱ」（カリキュラム、教材を含む） ・ビデオコンテンツ ・授業パッケージ
	附属学校間連携PJ	2月	附属学校間連携プロジェクト研究会	東京都内	本プロジェクトでは、平成24年度・平成25年度に、①各大学の附属学校園で実施されている現代的教育課題への先端的な取り組みの共有、②ICT活用にすぐれた教員養成のための機能の充実、③教員の理科授業力の向上を行った。平成26年度には④教育実習の指導教員に求められるキー・コンピテンシーについて検討を行った。平成27年度には研究授業に対する省察を指導する上で効果的なコンテンツ教材を、約50コンテンツ開発した。本年度は、外部評価として、複数の教育委員会の指導主事（教育実習関連）の方々に、コンテンツの視聴を依頼し、その有効性について質問紙調査を行い、外部評価を受ける。それに基づき、本研究会でFDコンテンツの内容の実証的評価を行い、コンテンツの達成度について議論する。それをもとに、FDコンテンツの一層の充実を図る。	○		○	教育実習指導教員のFDコンテンツ
	教職基礎体力を備え国際感覚に優れた教員の養成充実に向けた改革PJ	2月   3月	ワークショップ	大阪教育大学 天王寺キャンパス（大阪府大阪市）	今日、社会のグローバル化が進展するに伴い、日本の高等教育においても「グローバル人材の育成」が強く求められている。とりわけ次代の学校教育を担う教員養成大学の学生には、国際的な発信力の基礎となる「実践的な英語力の習得」が不可欠である。そこで、本プロジェクトでは学校教員養成課程における「英語教育の質保証」を目的とし、その達成のため「コミュニケーション能力」を重視した外部試験（TOEFL®、TOEIC®、IELTS™、英語検定等）を学習成果の目標値として活用する。最終的な到達目標は、留学や海外教育実習をも視野に入れた「外国語の自律学習支援モデル」を全国の課程認定大学に発信することである。	○			外国語自律学習支援モデル

**問い合わせ先**

- 小学校英語教育の指導力向上PJ・へき地・小規模校教育に関するPJ・演劇的手法による教育養成課程の学生並びに現職教員のコミュニケーション能力PJについて  
北海道教育大学 教員養成開発連携センター 電話：011-778-0889 E-mail:g-project@j.hokkyodai.ac.jp
- 理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進PJ・特別支援教育の多面的総合的支援PJ・外国人児童生徒学習支援PJ・教員の魅力PJについて  
愛知教育大学 教員養成開発連携センター 電話：0566-26-2417 E-mail:hatopj@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
- IR部門・研修交流支援部門・教育支援人材養成PJ・教育環境支援PJ・附属学校間連携PJ・放射線教育PJ・IB教育PJについて  
東京学芸大学 教員養成開発連携センター 電話：042-329-7901 E-mail:t-center@u-gakugei.ac.jp
- 安全防災教育のプログラム開発PJ・教職基礎体力を備え国際感覚に優れた教員の養成充実に向けた改革PJについて  
大阪教育大学 教員養成開発連携センター 電話：072-978-3483 E-mail:kaiji@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

**【HATOプロジェクトロゴマーク】**  
各大学のスクールカラーを使用した鳥（鳩）が並んで巣から飛び立とうとする様子から、連携する4大学で学んだ多くの学生が、素晴らしい能力と個性を兼ね備えた教師となり、期待と希望を持って、広い世界に飛び立つことを表現している。また、鳩の帰巣本能の強さになぞらえ、学が続けることのできる場所としての母校を半円形の巣により表現している。

